

開催の日にち	年間12回 (4/12・5/10・6/19・7/20・8/9・9/20・10/18・11/18・12/13・1/23・2/14・3/27)
講師	相馬 靖明先生
参加者	高木・一之木・石倉・富岡・細洲・吉崎・杉島・浦山・井上 (田邊・谷田部)
研修の目的	実践と記録をもとに日ごとの記録、期間ごとの記録、年間の記録を取りまとめて、保育教育課程の整備を行う。実践記録・ドキュメンテーション記録のフィードバックも行い各時期の保育の流れなどを構築することの重要性を理解し、また子どもの状況を理解することによって、環境の整備や対応・活動をデザインする。
年間の実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通してカリキュラムの再編を行い、より良い保育・教育を提供することができるようになった。 ・子ども一人一人の発達や良さを理解できるようになりそれを考慮し適切な対応をできるようになった。その子が遊びや生活の中でどのように感じているか、何を思っているのかを子どもと関わる際に、いつも意識して関わることの大切さに気づいた。 ・子ども理解が進むことで、年齢・発達別に今のような環境や遊びを用意したら良いのかことができ、それを実践に移すことでより子どもたちの成長を確保した教育ができるようになった。 ・年間の様々な行事や、季節にあった活動など、今までも行っていたが、より普段の子どもたちの生活や、発達に即した内容に改善できた。 ・記録についてマップ型や写真のついたドキュメンテーション記録など以前から取り入れていたが、内容についてフィードバックし、指導もしてもらい、より分かりやすいものになったため、次年度の教育の参考に利用できたり、保護者や地域の方へ保育・教育をお知らせすることができるようになった。 ・クラスの枠について見直し、クラス別ではなく発達の段階の近い子同士で過ごすようにしたり、異年齢同士の関わりを大切にしたりすることで、子どもたちが多様なかわりを持つことができるようになった。
今後の見通し 次年度へ向けて 反省点など	今年度はフロアでのかかわりは取れるようになったが、次年度はさらに状況や子どもの発達をふまえ、フロアを超えて保育者がかかわれるようにする。 さらに子ども理解も深め、職員間で共有して協力してカリキュラムの編成や、計画を行えるようにする。

各研修の詳細と具体的な実績・効果

開催日	研修内容	実績・効果
4月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児→月齢や人数に合わせて保育をする。クラスの枠にとらわれず。月齢によってはクラスを移動したりするのも良いのでは。 ・幼児→3.4.5才縦割りで保育をしたらどうか。 ・マップ型記録 写真+現状+ねらいを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で保育を行うということを職員間で共有した。乳児は発達に合わせて保育を行うように工夫。幼児は3歳児が4.5才のクラスに行きやすい工夫をした。 ・月齢別人数表の作成と確認。 ・マップ型記録の見直し。ねらいの明確化。
5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごとの記録のフィードバックを行う。時間帯別に環境・カリキュラムの見直し。時間帯による過ごし方の見直しを行った。 ・日ごとのドキュメンテーション記録から、環境を考える。 ・4.5才科学的なことを教育の中に取り入れる方法。絵本や図鑑を利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境設定の見直しを行った。乳児→つかまり立ちや体動かせる多様な環境を室内に用意。幼児→イメージできるもの、ままごとや乗り物など。自分たちや先生が作成して遊びの中で使えるものを用意した。 ・身近にある「たんぼぼ」を利用した教育。絵本、造形に取り入れた。
6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の考察を行う。記録の中から遊びを取り出し、そこから育ちにつながる姿を、環境の意味付けを考察し、場所別に表にする。 ・記録の中から子ども同士の関係や遊びを取り出し、育ちや環境の意味合いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちについて丁寧に理解することを学び、そこから環境やカリキュラムを作成。 ・子ども同士の関係性を丁寧にみることによって、必要なサポート、年齢に合った環境などを考慮することの大切さを学んだ。
7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごとの記録のフィードバックを行う。記録の中から環境設定、今後のカリキュラムの見直しを持つ。暑い日が多いので水遊びの準備など。 ・個別の子どもについて、何に興味を持っていたのか、遊びの中でどのような学びがあったのかを考察する。 ・記録の中から、個別の子どもの良さ正確について考察し記録に加え、今後の指導の可能性を探る。 ・3.4.5才の記録の中から、クラスでのまとまった活動についてその教育的意義などを考察し、今後の見直しについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやコミュニケーション、行動を通して、子どもの良さ、成長、学びをどのように推測していくのかを学んだ。またその子の今の育ちや徳量を理解することで次への活動や環境の準備に反映するという視点を持つことを学ぶ。 ・現在の活動について考察することによって次の活動の準備を行う。今あるもののほかに自然物、紙粘土などを用意。造形活動の発展へ。散策など自然活動を取り入れることでさらに科学的なことへの興味やお互いの経験の共有が生まれた。

8月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の見直し。具体的に何が必要かを考える。たらいやプール、水風船など。 ・夏休みの過ごし方を考察。1号児が長期休暇に入るため幼児合同の活動を増やす。大きい子の遊びを見てまねる活動。 ・記録を取ることで来年度の夏休みの活動の参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中の過ごし方を改善した。具体的なものを整備。水遊びに必要なものを見直す。水鉄砲など購入。 ・3.4.5才と一緒にできる活動。絵具の活動、縁日から引き続きの活動（ネックレス作りなど）。記録をしっかりとって来年度の参考に。
9月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のクラス活動に向けて、年齢別のねらいを確認。3才→自分の好きな役割を取得。先生やリーダーに合わせてまねて動く。4才→イメージを共有。まずは受け入れてくれそうな友だちと言葉で共有する。5才→目的を理解し言葉で相手と共有しあえる。認め合いの関係。 ・運動会に向けて 国旗・メダルなどイメージしやすい絵本や見本を用意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスねらいを踏まえて、なりきり遊びのコーナーを作ったり年齢に合った絵本を繰り返し読むことでイメージを共有したりといった工夫をした。みんなで共有することの楽しさを感じたり、お互いにルールを考えたりすることができた。 ・運動会の準備、メダル作りなどイメージの共有、目的を確認して意欲的に取り組むことができた。
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・日別記録のフィードバックを行う。ひと・もの・こととの関係性を中心に振り返る。玩具・自然などと子どもとの関係を丁寧にみていく。 ・ものを工夫して利用する経験を増やす。移設する、見立てる、かわりにつかうなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものと子どもたちとの関係に着目し、積み木など玩具を増やす。また、どんぐり、松ぼっくりなどの自然物と触れ合えるような環境を用意。少し涼しくなってきたので散策なども。 ・4.5才のクラスでは段ボール接着剤、紙皿、ひもなどを用意。工夫して利用する姿を記録していく。
11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会について内容と指導。発表会前に大人が劇などを演じて見せると良い。子どもたちイメージがわきやすい。 ・役を決める、大道具を作る、演じる、歌うなどの流れを具体的に想定しておく。 ・子ども同士の話し合いどこ部分ですかを考えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の計画の見直し。もう時期が近いので次回、来年に向けて。 ・イメージの共有を大切に。1学期からの準備が必要。先生が演じて見せる。絵本・ものがたりなどの共有。 ・見せ方などを改善した。年長歌とダンス交互に入場するなど。
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・記録から現状の状況を確認して活動や環境の改善について話し合う。 ・3学期に入るので次年度への準備、部屋の移動など。その際に環境の変化があまりないように今まで使っていた玩具など一緒に持っていく。 ・集団遊びを増やすなどクラス活動の見直しが必要。年齢に合ったルールのある遊びを取り入れる。 ・年長が卒園になるので4.5才児はそれを意識できるような活動を取り入れると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス日頃のクラスのカリキュラムを見直す。自由な活動、遊びが多かったが、おにごっこやかくれんぼなどを先生がまず鬼になるなど主導してやることで、子どもたち同士でもルールのある遊び、集団での遊びを行うようになった。 ・4.5才児は共同でやる活動なども増やし、卒園に向けての取り組みを各クラス相談。
1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れなどの見直し。乳児の場合 自由な遊び→集団の遊び→昼食 ・異年齢間のかかわりを増やしていく。乳児と4.5才いっしょにやる活動など。 ・遊びについての研修 自由な遊び⇄集団の遊び 発達の段階に合わせて取り入れていく。集団の遊びはクラスの中の1人という実感。 ・イメージの共有 大きいクラスは童話などを導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの見直しを行う。集団遊びをカリキュラムに取り入れる。みんなでやる活動（手遊び・歌・ダンス・造形活動など）を今までより増やすことで、共同性や、協調性の育ちが見られた。 ・異年齢間の活動を可能な限り取り入れるために職員間で話し合いを行う。園庭での活動以外にも相談。 ・みんなでやる活動の中でイメージの共有なども意識的に取り入れる。
2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・各時間帯の年齢別園児数の確認と、配置職員の調整。どの場所に何人の園児がいるのかを確認して、表にする。 ・5才児の卒業に向けての活動。5才児のみで行う、下の子たちへ歌を発表してあげるなどの計画を立てたりすると良い。 ・春期休業中の教室などの場所の使い方を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数をしっかり把握することで、早朝の時間より夕方の時間の方が園児数が多いことがわかり、配置を見直した。 ・5才児は1階フロアの落ち着いた場所で生活することで卒園に向けていっしょに考えたり協力して行う活動をすることができた。 ・春期休業中の配置や場所の使い方を職員間で共有して計画を立てる。遊びやみんなでやる活動をクラスを超えて考える。
3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の振り返り。 ・次年度への計画。新入園児の人数の把握と保育の組み立て。各クラススムーズな移行への計画。場所、担任の変更など。 ・一日の流れの確認。新入園児やと在園児（進級児）、1号児と2号児など生活リズムの違いを細かく把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度へ向けて。今年度の反省点（異年齢間の関わりを持ちにくさ・フロアを超えての相談の機会・集団、ルールのある遊びの導入など）さらに改善をしていく。 ・次年度の子どもの数を把握したカリキュラムの作成。なれている子とそうでない子の違いに配慮する。 ・環境設定 特に年長児のアトリエの整備。